



本展は、金沢若者夢チャレンジ・アートプログラムの第4弾として、現代美術家 高嶺格(たかみね ただす)が約1年にわたり金沢21世紀美術館で展開する長期プロジェクト型展覧会です。「Good House」と「Nice Body」の2つのプロジェクトから構成され、公募で集まったメンバーと作家との共同作業を通じて実現されます。

長期インスタレーションルームでは、展示室内に設置した「家」を舞台に、映像と音声が錯綜する新作の映像インスタレーションを発表します(「Nice Body」)。映像部分には、オーディションで集まったメンバーらが役者として参加し、高嶺のディレクションのもと、作品の一部となります。

8月末からは、土嚢や廃材などの素材を用いて、通常の「建築」概念では実現し得ないフォルムとプロセスで家を構築する過程をプロジェクト工房にて公開(「Good House」)。この土嚢の家作りにも公募で集まったメンバーが加わり、作家とともにひとつの造形空間を作り上げていきます。会期中は、土嚢の家を舞台に、トークやワークショップなどのプログラムも展開します。

高嶺はこれまで、民族や性、自己と他者など様々な問題と関わる中、他者との接触によって生じる衝突を受け止めつつ新たな関係性や未来を切り開いていくプロセスを作品として表してきました。本展では、2つ異なる場所・期間・形式の作品展示を通して、我々が生きていく上での2つの根本的な拠り所である「家」「体」について問い直していきます。

展覧会名	高嶺 格「Good House, Nice Body～いい家・よい体」	英文名	TAKAMINE Tadasu: Good House, Nice Body
会期・会場	2010年4月29日(木・祝) → 2011年3月21日(月・祝) [作品展示 / 長期インスタレーションルーム] 2010年4月29日(木・祝) → 2011年3月21日(月・祝) [作品公開制作 / プロジェクト工房] 2010年8月28日(土) → 2011年3月21日(月・祝)		
	◎ 開場時間 長期インスタレーションルーム / 10時～18時(金・土曜日は20時まで) プロジェクト工房 / 展覧会開場日の12時～18時を予定		
	◎ 開 場 日 / 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、その直後の平日。ただし、8月9日、8月16日、8月30日、11月22日、1月3日は開場 9月1日、11月24日、12月27日～1月1日)		
料 金	無 料	主 催	金沢21世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団]
協 力	橋本建築造園設計、クリーンリサイクル株式会社、IAMAS(情報科学芸術大学院大学)		

本資料に関する  
お問い合わせ

金沢21世紀美術館 展覧会担当 / 吉岡・吉備 広報担当 / 落合・沢井  
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1  
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802  
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: [press@kanazawa21.jp](mailto:press@kanazawa21.jp)



## 展覧会の特徴

## 1. 注目の現代美術家による1年にわたる長期プロジェクト型展覧会

インスタレーション、映像作品、写真作品から、パフォーマンス、舞台監督、舞台美術まで、ジャンルを横断し、多彩なメディアを駆使した表現活動で、高い評価を集める高嶺格が約1年にわたり当館を舞台に繰り広げる長期プロジェクト型展覧会です。「Good House」と「Nice Body」の2つのプロジェクトから構成されます。

## 2. ボランティア・メンバーとの共同作業で作り上げる金沢ならではの2つの新作

金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム\*の第4段をリードする作家としてプロジェクトを率いる高嶺格が公募やオーディションで集まったボランティアのメンバーとの共同作業を通じ、当地で集めた素材などをもとにした2点の新作を制作します。

**PROJECT 1** 「Nice Body」

長期インスタレーションルームでは4月29日より大規模な映像インスタレーション作品を展示。金沢近辺で集めた古材・廃材を用いてひとつの「家」を展示室内に出現させます。「家」を舞台に繰り広げられる、映像と音声と音が錯綜するストーリーには、オーディションで選ばれたメンバーたちが役者として参加。特殊な装置で撮影された彼らの身体の映像が、空間の中に浮かび上がります。

**PROJECT 2** 「Good House」

8月28日からはプロジェクト工房にて、公募で集まったメンバーと作家とが、土嚢を組みながら家作りを行い、さらに廃材などを組み合わせひとつの造形空間を構築していくプロセスをワーク・イン・プログレスとして公開。会期中、土嚢の家を舞台にトークやワークショップなど、様々なプログラムを展開します。

## 3. 「家」と「体」: 2つのプロジェクトで問う我々の生き方

本展は、作品制作の段階から我々が生きていく上で根本的な2つの拠り所である「家」「体」について、向き合い、話し合い、新たな可能性を問うことで生まれる展覧会であるといえるでしょう。複数の参加者の関わりや、制作途中の様々な出会いにより、会期中、変化成長する可能性をもつ「場」となります。

## \* 金沢若者夢チャレンジ・アートプログラムについて

ストックホルム近代美術館による十代後半の若者向けの教育普及プログラム「ゾーン・モデルナ」をモデルとし、2007年に始動したプログラムで、美術館が若者に芸術活動参画の機会を提供し、人間形成へ貢献することを目的としています。金沢21世紀美術館では、若者がアーティストとの芸術活動を通して成長する、独自の長期プロジェクト型展覧会を展開しています。

当館では、これまで以下のプログラムを展開してきました。

2007年度 日比野克彦アートプロジェクト「ホーム→アンド←アウェー」方式

2008年度 日比野克彦アートプロジェクト「ホーム→アンド←アウェー」方式 meets NODA [But-a-]

2009年度 広瀬光治と西山美なコの「ニットカフェ・イン・マイルーム」

## スケジュール

## 高嶺 格「Good House, Nice Body～いい家・よい体」

**PROJECT 1****「Nice Body」**

特殊な装置によって撮影された身体の映像を使った、ストーリーを持つ映像インスタレーション

・参加メンバー募集 2010年3月 ※参加メンバーの募集は締め切りました

・作品制作 2010年4月

・作品展示(長期インスタレーションルーム) 4月29日(木・祝) → 2011年3月21日(月・祝)

**PROJECT 2****「Good Body」**

土嚢や廃材を用い、通常の建築では実現し得ないフォルムとプロセスで作られた建築空間

・参加メンバー募集 2010年3月～8月

・作品公開制作(プロジェクト工房) 2010年8月28日(土) → 2011年3月21日(月・祝)

※アーティストの高嶺氏は、4月中金沢21世紀美術館に滞在、また8月後半にも金沢に滞在します。  
インタビュー取材等、ご希望の際は広報室までご相談下さい。

## 作家プロフィール

## 高嶺 格 (たかみね ただす)

1968年鹿児島県生まれ。滋賀県在住。

京都市立芸術大学工芸科漆工専攻卒業、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)卒業。1990年代初頭よりパフォーマンス活動を行い、ダムタイプの作品にも参加。現在では、インスタレーションや映像作品、写真作品、パフォーマンス等、様々なメディアを駆使しながら作品制作を行う。舞台作品の制作・演出、コラボレーションも多数手がける。その活動は、ヴェネツィア・ビエンナーレを始めとする国際展の参加などにより、海外でも高く評価されている。主な作品所蔵先は、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、熊本市現代美術館、広島市現代美術館、横浜美術館。



## 関連企画

## 高嶺格によるアーティスト・トーク

〔日時〕8月28日(土)14:00~15:30 <予定> 〔会場〕金沢21世紀美術館 レクチャーホール  
〔料金〕無料 〔定員〕先着80名(当日10時より、レクチャーホール前で整理券を配布します)

## ゲスト・プログラム・シリーズ

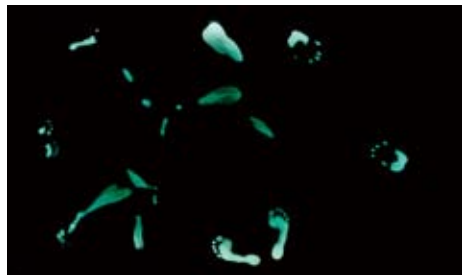
渡辺菊真氏(建築家・高知工科大学准教授)、家成俊勝氏(建築家、ドットアーキテツ)らによるトーク、ワークショップなど、ゲストによる特別プログラムを予定。

※その他、会期中に学芸員によるギャラリー・トーク、「絵本を読もう」など実施予定

## 広報用画像

※クレジットは全て明記してください。トリミングはご遠慮ください。  
※キャプション等の文字が画像にかぶらないよう、レイアウトにご配慮ください。  
※ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で広報室までご確認ください。

1.



高嶺格  
《Good House, Nice Body:私を建て、そして通り過ぎていった者たち》  
(2010) よりステル

2.



高嶺格  
《Good House, Nice Body:私を建て、そして通り過ぎていった者たち》  
(2010)

3.



高嶺格《Twist & Twist》制作風景(2009)  
「TWIST & SHOUT: Contemporary Art from Japan」展、  
Art and Culture Centre, Bangkok